

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
生化学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	生化学は、生体を構成している生体物質と、生体物質が相互に化学変化する代謝について、分子レベルで研究し、生命現象を解明する学問である。人体において、糖質、脂質、タンパク質、核酸などのいろいろな生体物質とその代謝によって生命活動が維持されていること、さらに最先端領域である遺伝情報の仕組みなど、生化学の基礎的知識を教授し、健康の維持、疾患の原因の理解、疾患を早期発見するための検査、疾患の予防や治療、医薬品の開発との関連について学修する。	1. 生化学の基礎的事項を理解できるようになる。 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質について説明できる。 3. 遺伝情報の仕組みについて理解できるようになる。 4. 疾病の病因、病態、診断、治療の生化学的要因について説明できる。	1. 生化学の基礎的事項を概ね理解できるようになる。 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質について概ね説明できる。 3. 遺伝情報の仕組みについて概ね理解できるようになる。 4. 疾病の病因、病態、診断、治療の生化学的要因について概ね説明できる。
発達心理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	人間の発達を生涯発達の視点で捉え、各発達段階における認知発達、社会・情動的発達の特徴を具体的に理解する。また、各々の時期の発達課題を明らかにし、その過程で陥りやすい危機状況やその回避などを学修することで、人への更なる理解を構築し、人間の発達と人々の健康状態や健康支援とを関連付けて考えられるように学修する。	1. 発達心理学の専門用語を用いて、人間の発達プロセスを表現することができる。 2. 生涯発達の視点から、現在の自分の発達段階について解釈することができる。	1. 発達心理学の専門用語を用いて、人間の発達プロセスを概ね表現することができる。 2. 生涯発達の視点から、現在の自分の発達段階について概ね理解することができる。
微生物学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護に関連する各種の病原微生物につき理解を深める。その前提として、微生物学は生物学、生化学、免疫学、感染症学など複数の分野の関連していることから、当該授業においては、まず生物学、生化学の基礎を確認したうえで、微生物学の歴史、微生物の構造と性質について学習する。さらに、免疫学の基礎的な事項を学習し、感染と感染症、感染予防・治療法、病原微生物と感染症などについて学習する。	1. 微生物の構造や増殖様式について説明できる。 2. ヒトの免疫機構の基本を説明できる。 3. 主な感染症の種類と特徴および原因微生物について説明できる。 4. 感染症の予防や治療の基本的事項について説明できる。 5. 看護師として安全な医療活動を行うための微生物学的事項を列挙できる。	1. 微生物の構造や増殖様式について概ね説明できる。 2. ヒトの免疫機構の基本を概ね説明できる。 3. 主な感染症の種類と特徴および原因微生物について概ね説明できる。 4. 感染症の予防や治療の基本的事項について概ね説明できる。 5. 看護師として安全な医療活動を行うための微生物学的事項を概ね列挙できる。
栄養学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護においては、対象の健康生活への援助における栄養に関するアセスメント・プランニングは、重要な役割である。本教科においては、この役割を遂行するための基礎となる理論について学ぶ。具体的には、食物の摂取にかかわる生理機能、栄養の吸収・代謝・異化の過程について学習する。さらに、健康障害時における栄養療法について、疾患系統別の食事療法の具体について学び、健康回復に必要な基礎となる知識を修得する。	1. 生命維持に必要な栄養素の消化・吸収・代謝、ライフステージごとの栄養学的特徴を説明できる。 2. 食物摂取にかかわる生理機能、吸収、代謝、異化について説明できる。 3. 健康の維持および疾病の予防や治療のための食事の役割を説明できる。	1. 生命維持に必要な栄養素の消化・吸収・代謝、ライフステージごとの栄養学的特徴を概ね説明できる。 2. 食物摂取にかかわる生理機能、吸収、代謝、異化について概ね説明できる。 3. 健康の維持および疾病の予防や治療のための食事の役割を概ね説明できる。
病理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	疾病の基本的な原因と発症機序を理解し、人体を構成する細胞、組織、臓器における病変をカテゴリーごとに学び、病気の診断、治療、予防への理解を深めるための基礎的な知識を修得する。疾病が身体に及ぼす影響や変化について説明できるようになること、人体を構成する細胞、組織、臓器の病変を、成り立ちや種類ごとに説明できるようになることを目標とする。	1. 疾病が身体に及ぼす影響や変化について説明できる。 2. 人体を構成する細胞、組織、臓器の病変を、成り立ちや種類ごとに説明できる。	1. 疾病が身体に及ぼす影響や変化について概ね説明できる。 2. 人体を構成する細胞、組織、臓器の病変を、成り立ちや種類ごとに概ね説明できる。
薬理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	適正かつ安全な薬物療法に貢献できるようになるため、薬物の体内動態、作用機序、有害作用に関する基本的事項を学習した後、各種疾患の薬物療法の概要、代表的な治療薬と有害作用、さらには、これら治療薬の適正な使用方法および副作用の回避法について紹介する。また、薬剤の管理法についても学習する。	1. 薬物療法における薬物体内動態や作用機序について説明できる。 2. 適切な薬物療法を行うための実践的な薬の使用法について説明できる。	1. 薬物療法における薬物体内動態や作用機序について概ね説明できる。 2. 適切な薬物療法を行うための実践的な薬の使用法について概ね説明できる。
解剖生理学I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	解剖生理学は人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を融合し、系統的に学ぶ学問である。ヒトの体や構成している各器官がどのように構成され、またどのように働くかを探求し、ヒトが生きていくためにどのような営みをしているかを学ぶ。解剖生理学Iでは、細胞・組織・遺伝子、基本的人体の構造、細胞膜の構造とその働き、循環系、消化器系、呼吸器系、栄養・代謝を学ぶ。	1. 人体を構成する細胞、組織を説明できる。 2. 外皮系・呼吸器系・循環器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系に関する人体の構造と機能を説明できる。	1. 人体を構成する細胞、組織を概ね説明できる。 2. 外皮系・呼吸器系・循環器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系に関する人体の構造と機能を概ね説明できる。
解剖生理学II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	解剖生理学は人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を融合し、系統的に学ぶ学問である。ヒトの体や構成している各器官がどのように構成され、またどのように働くかを探求し、ヒトが生きていくためにどのような営みをしているかを学ぶ。解剖生理学IIでは、血液・体液・免疫系、神経・感覚器系、腎臓・泌尿器系、内分泌系、体温調節、成長と老化を学ぶ。	1. 骨格系・筋系・内分泌系、代謝系・神経系・感覚系および免疫系に関する人体の構造と機能を説明できる。	1. 骨格系・筋系・内分泌系、代謝系・神経系・感覚系および免疫系に関する人体の構造と機能を概ね説明できる。
病態と治療I（臓器疾患）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性を理解した上で、それぞれの疾患についての病因、病態、診断、治療についての基礎的知識を修得する。呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について説明できるようになること、各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について説明できるようになること、各疾患の検査、診断、治療について説明できるようになることを目標とする。	1. 呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について説明できる。 2. 各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について説明できる。 3. 各疾患の検査、診断、治療について説明できる。	1. 呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について、大まかに説明できる。 2. 各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について、大まかに説明できる。 3. 各疾患の検査、診断、治療について、大まかに説明できる。
病態と治療II（全身システム疾患）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムの機能異常や全身性疾患について病因、病態、診断、治療について基礎的知識を修得する。	1. 内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムについて説明できる。 2. 各疾患の発生機序と病態、症状について説明できる。 3. 各疾患の検査、診断、治療について説明できる。	1. 内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムについて概ね説明できる。 2. 各疾患の発生機序と病態、症状について基本的な説明ができる。 3. 各疾患の検査、診断、治療について基本的な説明ができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
病態と治療III （老年科疾患）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	高齢者の身体の構造と機能の特徴を理解し、老年症候群の発生機序と病態・診断・治療についての基礎的知識を修得する。	1. 加齢と老化のメカニズムについて説明できる。 2. 高齢者に生じやすい疾患の病態・診断・治療について説明できる。	1. 加齢と変化のメカニズムの要点を説明できる。 2. 高齢者に生じやすい主要な疾患について、その病態・診断・治療の要点を説明できる。
病態と治療IV （産婦人科疾患）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	女性および妊娠・分娩・産褥期の母子の身体の構造と機能を理解し、女性生殖器および妊娠・分娩・産褥期の母子の異常の発生機序と病態・診断・治療についての基礎的知識を修得する。	1. 女性生殖器の構造と機能、異常の発生機序・病態・診断・治療について説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥における母子の身体の構造と機能、異常の発生機序と病態・診断・治療について説明できる。	1. 女性生殖器の構造と機能、異常の発生機序・病態・診断・治療について、概ね説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥における母子の身体の構造と機能、異常の発生機序と病態・診断・治療について、概ね説明できる。
病態と治療V（小児科疾患）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	先天性疾患や小児期によくみられる疾患について学ぶ。各発達期の身体的特徴と疾患について、病因、病態、症状、検査、および治療について学習するとともに、今日的な小児科診療について知見を得る。さらに、小児看護学を学習するために必要な医学的知識、および、臨床看護実践に必要な知識を得る。	1. 新生児期から思春期までの小児各期における発育の特徴を系統的に説明できる。（知識・理解） 2. 主な先天性疾患の病因・病態、および症状について系統的に説明できる。（知識・理解） 3. 主な先天性疾患の検査・治療について根拠をふまえて説明できる。（知識・理解） 4. 小児期に罹患しやすい疾患の病因・病態、および症状について系統的に説明できる。（知識・理解） 5. 小児期に罹患しやすい疾患の検査・治療について根拠をふまえて説明できる。（知識・理解）	1. 新生児期から思春期までの小児各期における発育の特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 主な先天性疾患の病因・病態、および症状について説明できる。（知識・理解） 3. 主な先天性疾患の検査・治療について説明できる。（知識・理解） 4. 小児期に罹患しやすい疾患の病因・病態、および症状について説明できる。（知識・理解） 5. 小児期に罹患しやすい疾患の検査・治療について説明できる。（知識・理解）
病態と治療VI （精神科系疾患）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	精神機能とその障がいについて理解し、特徴的な精神疾患について、その発生機序・病態・診断・治療に関する精神医学の基礎的な知識を修得する。精神機能とその障がいについて説明できるようになること、特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について説明できるようになること、特徴的な精神科疾患についての診断・治療について説明できるようになることを目標とする。	1. 精神機能とその障がいについて説明できる。 2. 特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について説明できる。 3. 特徴的な精神科疾患についての診断・治療について説明できる。	1. 精神機能とその障がいについて大まかに説明できる。 2. 特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について大まかに説明できる。 3. 特徴的な精神科疾患についての診断・治療について大まかに説明できる。
看護倫理	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	3	看護職としての倫理的意思決定や看護実践の現場における倫理的諸問題の解決に必要な基礎的知識や理論を学ぶ。具体的には、看護倫理の歴史の変遷、概念、倫理をめぐる諸理論、倫理的行動基準、看護師の倫理綱領、専門職の責務、アドボカシー、看護師の倫理的ジレンマ等について修得する。授業においては、看護実践の現場から提起される倫理的問題、他職種間の倫理調整についての事例を取り上げ、倫理的諸課題に対する対処法や解決法を検討し、考察する。	1. 看護倫理の歴史の変遷について説明できるようになる。 2. 倫理に関連する理論について理解できるようになる。 3. 倫理的行動基準、看護師の倫理綱領について説明できるようになる。 4. 専門職の責務、アドボカシーについて説明できるようになる。	1. 看護倫理の歴史の変遷について概ね説明できるようになる。 2. 倫理に関連する理論について概ね理解できるようになる。 3. 倫理的行動基準、看護師の倫理綱領について概ね説明できるようになる。 4. 専門職の責務、アドボカシーについて概ね説明できるようになる。
看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	看護学とはいかなる学問であるのか、その導入に位置づけられる科目であり、看護学が対象とする事象について多角的に探究する視点を学ぶ。具体的には、看護・看護学の歴史的發展過程、看護実践を導くための理論的根拠となる看護理論の変遷とその内容について学ぶ。これらの学びを通して、看護・看護学について自ら主体的に考えていくための土台を形成することを学習の中心課題とし、発展的な学習姿勢の基礎をつくる。	1. 看護の理念を構成する主要な要素（看護、人間、健康、環境）について、学習内容を踏まえて、自分の考えを述べるようになる。 2. 看護の歴史の変遷を概観し、看護と社会のかわりや専門性について自分の考えを述べるようになる。 3. 主要な看護理論について3つ以上概要の説明ができるようになる。 4. 看護の機能と役割、ならびに看護に関する法や教育制度を説明できるようになる。 5. 看護活動において必要な基礎的概念（看護過程、安全、看護管理ほか）を説明できるようになる。 6. 保健医療福祉システムとチーム医療の概要を説明できるようになる。 7. 看護職に求められる倫理について、学習内容を踏まえて自分の考えを述べるようになる。	1. 看護の理念を構成する主要な要素（看護、人間、健康、環境）について、現時点での自分の考えを述べるようになる。 2. 看護の歴史の変遷を概観し、看護の専門性について自分の考えを述べるようになる。 3. 主要な看護理論について1つ以上概要の説明ができるようになる。 4. 基本的な看護の機能と役割について説明できる。 5. 看護活動に関する基礎的概念（看護過程、安全、看護管理ほか）の構成要素を説明できるようになる。 6. 保健医療福祉におけるチーム医療の概要を説明できるようになる。 7. 看護職に求められる倫理について、自分の考えを述べるようになる。
人間関係論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	対人援助職としてケアの対象ならびにケアの関係者との良好な人間関係を築き、効果的な支援が行えるための自己理解・他者理解・円滑なコミュニケーションについての知識・技術を修得する。自己理解・他者理解を深める方法について説明できるようになること、良好な人間関係構築の方法について説明できるようになること、円滑なコミュニケーションの方法について説明できるようになることを目標とする。	1. 自己理解・他者理解を深める方法について説明できる。 2. 良好な人間関係構築の方法について説明できる。 3. 円滑なコミュニケーションの方法について説明できる。	1. 自己理解・他者理解を深める方法について概ね説明できる。 2. 良好な人間関係構築の方法について概ね説明できる。 3. 円滑なコミュニケーションの方法について概ね説明できる。
多職種連携論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	保健医療福祉分野において多職種連携が必要とされる社会的背景と、看護職が連携する様々な職種の役割・機能について学ぶとともに、多職種連携の展開方法と実際について学修する。看護実践における多職種連携の重要性について説明することができるようになること、看護職が連携する職種の特性について説明することができるようになること、多職種連携における看護職の役割について考えられるようになることを目標とする。	1. 看護実践における多職種連携の重要性について説明することができる。 2. 看護職が連携する職種の特性について説明することができる。 3. 多職種連携における看護職の役割について考えることができる。	1. 看護実践における多職種連携の重要性について概ね説明することができる。 2. 看護職が連携する職種の特性について概ね説明することができる。 3. 多職種連携における看護職の役割について考えることができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
看護統計	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	科学的な根拠に基づく看護（EBN：Evidence Based Nursing）を実現するために、統計学は必須のものである。医療場面で求められる統計として、記述統計、推測統計、統計手法の活用法、結果の解釈について学習する。	1. 医療情報の活用方法、サンプリングにつき説明できるようになる。 2. 統計の種類、解析、解釈につき説明できるようになる。	1. 医療情報の活用方法、サンプリングにつき概ね説明できるようになる。 2. 統計の種類、解析、解釈につき概ね説明できるようになる。
保健医療福祉行政論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	社会保障の定義、体系、目的を学び、社会保障のうち特に、医療保険制度、介護保険制度、障害者支援制度、難病対策、生活保護制度等の意義・目的、基本的な枠組みを学修する。また、わが国の公衆衛生行政のしくみと役割、実施体制について学修する。 合わせて、わが国の社会保障の課題と看護職の役割を検討する。	1. 社会保障に関する基礎的な知識を修得できる。 2. 主要な社会保障制度の枠組みと課題について説明できる。 3. 公衆衛生行政のしくみと役割、実施体制に関する基礎的な知識を修得できる。 4. 社会保障における看護職の役割を考慮することができる。	1. 社会保障に関する基礎的な知識を修得できる。 2. 主要な社会保障制度の枠組みと課題について概ね説明できる。 3. 公衆衛生行政のしくみと役割、実施体制に関する基礎的な知識を修得できる。 4. 社会保障における看護職の役割を考慮することができる。
保健統計	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	公衆衛生の各分野における保健の水準を示す各種指標について学修する。また、本邦における公衆衛生の各分野における施策、制度、システムの変遷が保健の水準の変化とどのように関連してきたのかについて学修する	1. 公衆衛生の各分野に関連する保健統計、人口動態・動態統計について説明できる。 2. 本邦における公衆衛生の各分野の保健の水準の変遷について説明できる。 3. 本邦における公衆衛生の各分野の施策、制度、システムと保健の水準の変遷の関連について説明できる。	1. 公衆衛生の各分野に関連する保健統計、人口動態・動態統計について概ね説明できる。 2. 本邦における公衆衛生の各分野の保健の水準の変遷について概ね説明できる。 3. 本邦における公衆衛生の各分野の施策、制度、システムと保健の水準の変遷の関連について概ね説明できる。
疫学 I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	集団における健康課題の原因となる環境因子との関係を査定する疫学の基礎を学修する。また、感染症対策を通じて、公衆衛生活動における疫学調査の活用方法について学修する。	1. 疫学の調査方法、指標、推論法について説明できる。 2. 疾病のスクリーニングの方法と指標について説明できる。 3. 感染症対策における疫学調査の実施方法とデータの活用方法について説明できる。	1. 疫学の調査方法、指標、推論法について概ね説明できる。 2. 疾病のスクリーニングの方法と指標について概ね説明できる。 3. 感染症対策における疫学調査の実施方法とデータの活用方法について概ね説明できる。
基礎看護学実習 I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	健康生活を支えている看護活動の場や医療施設における看護援助場面の見学や体験を通し、看護の機能・役割を理解し、看護の魅力が発見できるようにする。また、対象の日常生活に関するニーズを把握し、必要な援助計画の立案、実施の見学を通して看護実践者としての基礎を築く。具体的には、1. 対象の療養環境について、生活者の視点から理解できる。2. 看護の思考のプロセスに基づき、受け持ち患者の日常生活に関するニーズを把握し、援助計画の立案、実施、評価をする必要性がわかる。3. 看護を実践する者として基本的な実習態度を身につけることを目標とする。	1. 入院患者の生活の場を学習内容と照らし合わせて理解できるようになる。 2. 入院患者の日常生活状況を学習内容と照らし合わせて理解できるようになる。 3. 看護者としての援助のあり方を学習内容と照らし合わせて理解できるようになる。 4. 看護の魅力が発見し、看護学を学ぶ動機を明確にすることができるようになる。 5. 基本的な学習の方法・態度を身につけ自己の課題を明確にできるようになる。	1. 入院患者の生活の場を理解できるようになる。 2. 入院患者の日常生活状況を理解できるようになる。 3. 看護者としての援助のあり方を理解できるようになる。 4. 看護学を学ぶ動機を明確にすることができるようになる。 5. 基本的な学習の方法・態度を身につけることができるようになる。
基礎看護学実習 II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	さまざまな健康機能障害をもつ対象の健康上のニーズを把握し、看護過程を通して、健康回復のために必要な看護の方法を学ぶ。具体的には、1. さまざまな健康機能障害をもつ対象の健康上のニーズを把握し、看護過程を通して看護を実践することができる。2. 患者の安全・安楽、かつ科学的根拠を考えた基本的看護技術を活用した看護計画に基づいて、看護が実施できる。3. 実施した援助の内容及び結果について、記録できる。4. 看護チームメンバーへの報告ができる。5. 実習グループメンバーの中で、メンバーシップが発揮できることを目標とする。	1. さまざまな健康機能障害をもつ対象の健康上のニーズの全体を把握し、看護過程を通して看護を実践することができるようになる。 2. 科学的根拠に基づいた看護技術を、患者の安全・安楽を確保して実施できるようになる。 3. 実施した援助の内容及び結果について、記録できるようになる。 4. 看護チームメンバーへの報告ができるようになる。 5. 実習グループメンバーの中で、リーダーシップとメンバーシップを発揮できるようになる。	1. さまざまな健康機能障害をもつ対象の健康上のニーズの重要な部分を把握し、アセスメントを通して、支援を得ながら看護を実践することができるようになる。 2. 科学的根拠に基づいた基本的な看護技術を患者の安全・安楽を確保して支援を得ながら実施できるようになる。 3. 実施した援助の内容及び結果について、支援を得ながら記録できるようになる。 4. 看護チームメンバーへの最低限の報告を支援を得ながらできるようになる。 5. 実習グループメンバーの中で、メンバーシップを発揮できるようになる。
基礎看護技術論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護実践に共通する看護技術の原理原則として、援助的人間関係の形成に必要な知識・技術・態度、安全・安楽について学ぶ。援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を修得できるようになること、感染予防の原理原則としてのスタンダードプリコーションが実施できるようになること、基本的な身体を使い方として、ボディメカニクスの技術が修得できるようになること、患者の療養環境を整える技術を身につけることを目標とする。	1. 援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を修得できる。 2. 感染予防の原理原則としてのスタンダードプリコーションが実施できる。 3. 基本的な身体を使い方として、ボディメカニクスの技術が修得できる。 4. 患者の療養環境を整えることができる。	1. 援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術のうち、傾聴・共感の技術を用いたコミュニケーションが実施できる。 2. 衛生的手洗い、擦手手指消毒法、個人防護具の着脱が1人で実施できる。 3. 臥床患者の左右水平移動、上方水平移動をボディメカニクスを活用して1人で実施できる。 4. クローズドベッドを作成できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ヘルスアセスメント論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	人間の健康問題について、主観的情報および客観的情報に基づき総合的にアセスメントし、健康にかかわる問題を明らかにするプロセスを学ぶ。看護におけるヘルスアセスメントの意義を説明できるようになること、患者の身体面・心理面・社会面の状態を明らかにするためのデータ収集・整理・分析を学修すること、呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが実施できるようになることを目標とする。	1.ヘルスアセスメントとは何かを説明できる。 2.患者の身体面・心理面・社会面の状態を明らかにするためのデータ収集（Sデータ・Oデータ）・整理（アセスメントシートへの分類）・分析（アセスメント）が1人で実施できる。 3.呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが実施できる。 4.演習で実施したフィジカルアセスメントの結果を適切に記録し、アセスメントできる。 5.バイタルサイン測定が実施できる。	1.ヘルスアセスメントとは何かを助言を受けて説明できる。 2.患者の身体面・心理面・社会面の状態を明らかにするためのデータ収集（Sデータ・Oデータ）・整理（アセスメントシートへの分類）・分析（アセスメント）がサポートがあれば実施できる。 3.呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが助言を受けて実施できる。 4.演習で実施したフィジカルアセスメントの結果を適切に記録できる。 5.血圧測定が実施できる。
看護過程展開論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	看護実践において基本となる看護過程の展開について理解する。対象の健康問題を解決するために必要な、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価の基本などの一連のプロセスについて「問題解決思考と行動」の観点から理解し、実践できるようにする。また、看護過程を支える様々な看護理論についても理解を深め、対象の置かれている状況や場面に応じた、適切な理論を活用して看護過程が展開できるよう演習を通して学ぶ。	1.看護過程を構成する要素とそのプロセスを述べることができるようになる。 2.看護実践における看護過程を用いる意義を説明できるようになる。 3.問題解決過程やクリティカルシンキング、情報分析方法、倫理的判断等、看護過程の基盤となる考え方ができるようになる。 4.看護過程の各構成要素（アセスメント・問題の明確化・看護計画・実施・評価の基本的な考え方を学び、紙上事例を通して実践できるようになる。	1.看護過程を構成する要素とそのプロセスを、助言を受けて述べることができる。 2.看護実践における看護過程を用いる意義を助言を受けて説明できる。 3.問題解決過程やクリティカルシンキング、情報分析方法、倫理的判断等、看護過程の基盤となる考えに気づくことができる。 4.看護過程の各構成要素（アセスメント・問題の明確化・看護計画・実施・評価の基本的な考え方を学び、助言を受けながら紙上事例を通して実践できる。
日常生活援助技術論I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護の対象者が健康状態に応じた日常生活を営めるよう、「活動と休息」「食事」の日常生活行動に関する欲求を充足する援助に必要な基本的知識・技術・態度を学ぶ。活動・休息を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになること、食事を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになることを目標とする。	1.活動・休息を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになる。 2.食事を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになる。	1.活動・休息を整える援助技術を基本的な知識をもとに、助言を受けて、実施できるようになる。 2.食事を整える援助技術を基本的な知識をもとに、助言を受けて、実施できるようになる。
日常生活援助技術論II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護の対象者が健康状態に応じた日常生活を営めるよう、「排泄」「清潔」の日常生活行動に関する欲求を充足する援助に必要な基本的知識・技術・態度を学ぶ。自然な排泄を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになること、清潔を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになることを目標とする。	1.自然な排泄を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになる。 2.清潔を整える援助技術を基本的な知識をもとに実施できるようになる。	1.自然な排泄を整える援助技術を基本的な知識をもとに、助言を受けて、実施できるようになる。 2.清潔を整える援助技術を基本的な知識をもとに、助言を受けて、実施できるようになる。
医療支援技術論I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護の対象が診療を受けるための治療処置時（無菌的操作、経管栄養、導尿、浣腸、吸引、酸素療法など）の援助について基礎看護技術の修得を目指す。	1.清潔と汚染、滅菌と消毒を明確に区別し、感染予防の技術を実施できる。 2.呼吸や循環を整える援助技術を基本的な知識をもとに模擬患者に対して実施できる。 3.栄養や排泄を整える援助技術を基本的な知識をもとに模擬患者に対して実施できる。	1.清潔と汚染、滅菌と消毒を明確に区別し、感染予防の技術を助言を受けて実施できる。 2.呼吸や循環を整える援助技術を基本的な知識をもとに助言を受けて模擬患者に対して実施できる。 3.栄養や排泄を整える援助技術を基本的な知識をもとに助言を受けて模擬患者に対して実施できる。
医療支援技術論II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	看護の対象が安心して診療を受けるための診察・検査時における援助、治療処置時（特に与薬）の援助について、状況判断や根拠のある看護が提供できるよう、正確かつ確実性のある基礎看護技術の修得を目指す。	1.検査における看護師の役割と責任を説明できるようになる。 2.主な検体の採取方法及び取り扱い方法を説明できるようになる。 3.シミュレーターを用い、静脈血採血を基本的な方法で行うことができるようになる。 4.薬物療法における看護師の役割と責任を説明できるようになる。 5.与薬法の種類と正確かつ安全・安楽に与薬する基本的な方法を説明できるようになる。 6.シミュレーターを用い、筋肉内注射及び点滴静脈内注射を基本的な方法で行うことができるようになる。	1.検査における看護師の役割と責任を助言を受けて説明できる。 2.主な検体の採取方法及び取り扱い方法を助言を受けて説明できる。 3.シミュレーターを用い、静脈血採血を基本的な方法で助言を受けて行うことができる。 4.薬物療法における看護師の役割と責任を助言を受けて説明できる。 5.与薬法の種類と正確かつ安全・安楽に与薬する基本的な方法を助言を受けて説明できる。 6.シミュレーターを用い、筋肉内注射及び点滴静脈内注射を基本的な方法で助言を受けて行うことができる。
成人看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	成人期にある対象を身体の変化並びに心理的・社会的発達、就業を中心とした生活、健康の観点から理解し、成人の健康障害の特徴を学修する。また、成人が健康を保持増進するための政策、法的基盤、産業保健における取組みについて学ぶ。さらに、成人の健康レベルに応じた多様なアプローチについて、基盤となる理論も含めて理解を深める。	1.成人期にある対象の身体的変化、心理的・社会的発達、就業を中心とした生活、多様な健康観について説明できる。 2.成人の生活と健康障害の特徴を関連付けて説明できる。 3.成人の健康保持増進のための国家的戦略、法的基盤、産業保健における取組みについて説明できる。 4.成人の健康支援に関連した理論について具体的に説明できる。	1.成人期にある対象の身体的変化、心理的・社会的発達、就業を中心とした生活、多様な健康観について部分的に説明できる。 2.成人の生活と健康障害の特徴を説明できる。 3.成人の健康保持増進のための国家的戦略、法的基盤、産業保健における取組みについて部分的に説明できる。 4.成人の健康支援に関連する重要な理論について説明できる。
成人看護学援助論I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	手術を受ける成人とその家族の急性期から回復期における看護と機能障害に対して回復を促進し、生活の再構築に向けて必要な援助方法を学修する。	1.手術を受ける成人とその家族の急性期から回復期における健康問題の特徴と看護援助を説明できる。 2.疾病や手術によって機能障害をきたした成人の日常生活への影響を説明できる。 3.回復を促進し、生活の再構築を促す看護援助を説明できる。	1.手術を受ける成人とその家族の急性期から回復期における健康問題の特徴と基本的な看護援助を説明できる。 2.疾病や手術によって機能障害をきたした成人の日常生活への影響について部分的に説明できる。 3.回復を促進し、生活の再構築を促すための基本的看護援助を説明できる。
成人看護学援助論II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	慢性期、終末期にある成人とその家族の看護問題の特徴を理解し、健康を維持するためのセルフコントロールの獲得、QOLを向上させる看護援助、全人的苦痛の緩和、家族への予期的悲嘆や死別に伴う援助について学修する。	1.慢性期や終末期ある成人とその家族における健康上の課題と看護援助の特徴について説明できる。 2.長期的な療養管理を必要とする成人とその家族に対するセルフケア獲得に向けた支援について説明できる。 3.全人的な苦痛を伴う終末期にある成人とその家族に対する苦痛の緩和やQOL向上に向けた支援について説明できる。	1.慢性期や終末期ある成人とその家族における健康上の課題と看護援助の特徴について説明できる。 2.長期的な療養管理を必要とする成人とその家族に対するセルフケア獲得に向けた支援について部分的に説明できる。 3.全人的な苦痛を伴う終末期にある成人とその家族に対する苦痛の緩和やQOL向上に向けた支援について部分的に説明できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
成人看護学援助演習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	急激な健康障害をきたした成人とその家族の急性期から回復期に必要な看護、および機能障害をもつ対象と家族に必要な看護を実践するための援助技術について学ぶ。	1. 周手術期の代表的事例により、急性期から回復期におけるアセスメントと看護問題の抽出ができる。 2. 周手術期の代表的事例により、急性期から回復期における看護計画が立案できる。 3. 周手術期の患者と家族に必要な基本的技術が実施できる。 4. リハビリテーションが必要な成人とその家族に必要な看護を明らかにし、基本技術を実施することができる。	1. 周手術期の代表的事例により、急性期から回復期におけるアセスメントと看護問題の抽出が部分的にできる。 2. 周手術期の代表的事例により、急性期から回復期における基本的看護計画が立案できる。 3. 周手術期の患者と家族に必要な基本的技術が実施できる。 4. リハビリテーションが必要な成人とその家族に必要な看護を部分的に明らかにし、基本技術を実施することができる。
成人看護学援助演習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	慢性期および終末期にある成人とその家族の課題を明らかにし、看護を実践するために必要なフィジカルアセスメントや症状緩和のための援助技術について学ぶ。	1. 慢性期および終末期にある成人とその家族に必要な看護をアセスメントし、看護診断を明らかにすることができる。 2. 看護診断に基づき援助プランを立案し、具体的に説明できる。 3. 立案した援助プランのなかで主に教育技術について実施することができる。	1. 慢性期および終末期にある成人とその家族に必要な看護をアセスメントし、看護診断を部分的に抽出することができる。 2. 看護診断に基づき援助プランを立案し、説明できる。 3. 立案した援助プランのなかで主に教育技術について部分的に実施することができる。
成人看護学実習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	3・4	手術を受ける対象の急性期から回復期の心身の特徴を基盤に、健康レベルに応じた援助について、実践を通して学習する。また、手術を受けた対象が機能障害に適応し、生活の再構築ができるような支援について実践を通して理解する。具体的には周手術期の対象を受け持ち、アセスメント、看護診断、援助計画の立案、実施、評価の一連の過程を展開する。また、手術中の看護を学ぶために手術患者と共に手術室に入室し、麻酔下における手術中の呼吸、循環動態の管理、生体侵襲を最小限にする援助等を見学を通して学ぶ。	1. 周手術期・回復期にある対象・家族並びに関係者との適切な援助関係を築くことができる。 2. 周手術期・回復期にある機能障害に着目し、フィジカルアセスメントができる。 3. 周手術期にある対象の発達課題、生活過程、健康状態（機能障害の程度・治療・予後）を相互に関連づけて、心身の特徴や変化する経過に応じた援助の特徴を説明できる。 4. 周手術期・回復期にある対象の機能障害や検査・処置・治療により、基本的ニーズの充足の変更を余儀なくされた対象に適した生活を整えることができる。 5. 回復期にある対象が治療により変化した機能障害に適応でき、より最適な生活ができるように、生活修正およびセルフケア行動の獲得に向けた援助ができる。 6. 周手術期・回復期にある対象を生活者の観点からとらえ、機能障害に伴う生活の修正・適応、並びにQuality of life が高められるような看護過程の展開ができる。	1. 周手術期・回復期にある対象・家族並びに関係者との基本的な援助関係を築くことができる。 2. 周手術期・回復期にある機能障害に着目し、基本的なフィジカルアセスメントができる。 3. 周手術期にある対象の発達課題、生活過程、健康状態（機能障害の程度・治療・予後）を相互に関連づけて、心身の特徴や変化する経過に応じた援助の特徴を部分的に説明できる。 4. 周手術期・回復期にある対象の機能障害や検査・処置・治療により、基本的ニーズの充足の変更を余儀なくされた対象に適した生活を部分的に整えることができる。 5. 回復期にある対象が治療により変化した機能障害に適応でき、より最適な生活ができるように、生活修正およびセルフケア行動の獲得に向けた基本的援助ができる。 6. 周手術期・回復期にある対象を生活者の観点からとらえ、機能障害に伴う生活の修正・適応、並びにQuality of life が高められるような看護過程の展開部分的ができる。
成人看護学実習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	3・4	慢性期にある対象の健康障害と治療への反応が発達段階や生活過程に及ぼす影響を踏まえて、対象がより最適な健康状態となるようなセルフケアの習得ができるように実践を通して学習する。終末期にある対象の全人的苦痛を緩和し、QOLを向上させるような支援についても実践を通して理解する。	1. 慢性期・終末期にある対象、その関係者と適切な援助関係を築くことができる。 2. 慢性期・終末期にある対象の病態、機能障害、治療方法に着目し、フィジカルアセスメントができる。 3. 慢性期にある対象の健康レベル、心理反応、社会での役割・活動に応じて、ライフスタイルの再構築、セルフケア行動の獲得ができるように援助計画の立案、実践、評価、修正ができる。 4. 終末期にある対象の機能障害の程度、心理反応、個別的な生き方に応じて、全人的な苦痛の緩和、QOLの向上ができるように援助計画の立案、実践、評価、修正ができる。 5. 保健医療チームの一員としての院内外の連携システムと看護者の役割を理解し、多職種連携の仕方を体験的に学ぶ。	1. 慢性期・終末期にある対象、その関係者と適切な援助関係を築くことができる。 2. 慢性期・終末期にある対象の病態、機能障害、治療方法に着目し、フィジカルイグザミネーションができる。 3. 慢性期にある対象の健康レベル、心理反応、社会での役割・活動に応じて、ライフスタイルの再構築、セルフケア行動の獲得ができるように援助計画の立案、実践、評価、修正が部分的にできる。 4. 終末期にある対象の機能障害の程度、心理反応、個別的な生き方に応じて、全人的な苦痛の緩和、QOLの向上ができるように援助計画の立案、実践、評価、修正が部分的にできる。 5. 保健医療チームの一員としての院内外の連携システムと看護者の役割を理解し、多職種連携の仕方を見学を通して学ぶことができる。
老年看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	老年期の発達課題、加齢現象、成熟する能力について総合的に学び、高齢者の多様性を理解する。また、社会保障制度の整備の過程や権利擁護の現状を把握し、高齢者と家族の健康と生活を支える社会の枠組みを理解する。これらの学修を通して、老年看護が果たすべき役割を考察する。	1. 老年期の発達課題を説明できる。 2. 加齢変化の個別性、多様性の大きさを理解するとともに、身体・生理的側面、心理・精神的側面、社会的側面の特徴を説明できる。 3. 加齢変化が高齢者の健康や生活に及ぼす影響を説明できる。 4. 高齢者と家族を支える保健医療・福祉、および権利擁護の制度と現状、課題を説明できる。 5. 以上の学びを通して、老年看護の果たすべき役割を説明できる。	1. 老年期の発達課題の要点を説明できる。 2. 身体的な加齢変化の要点、ならびに高齢者の健康と生活に及ぼす影響を説明できる。 3. 老人福祉法と介護保険法が整備された経緯と、法制度の大枠を説明できる。 3. 高齢者虐待の種類と現状、高齢者虐待防止法の特徴を説明できる。 4. 身体拘束が高齢者に及ぼすマイナスの影響を説明できる。 5. 老年看護の役割を、自分なりの言葉で説明できる。
老年看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	老年期に特徴的な健康・生活面の不具合、ならびに残存機能を評価し、それらの軽減あるいは維持・向上をはかる援助の方法を学ぶ。さらに、健康段階や療養の場の違いによる援助の特徴を把握するとともに、家族への支援のあり方についても理解を深める。また、最期までその人らしく生きることへの援助の方法と倫理的課題についても検討する。	1. 高齢者の日常生活行為と動作に影響する諸問題の評価と援助の方法を説明できる。 2. 老年期特有の認知機能に不具合のある高齢者の評価と援助の方法を説明できる。 3. 老年期特有の身体疾患や症状・症候群を併存させながら療養生活を送る高齢者の評価と援助の方法を説明できる。 4. 高齢者に対する検査や治療の特徴、ならびに入退院の際の援助の方法を説明できる。 5. 家族介護の現状と介護者への援助の方法を説明できる。 6. エンドオブライフケアの概念、および人生の最終段階に求められる援助の方法を説明できる。	1. 高齢者の日常生活行為と動作に影響する諸問題の主要な評価と援助の方法を説明できる。 2. 老年期特有の認知機能に不具合のある高齢者に対する、主要な評価と援助の方法を説明できる。 3. 老年期特有の主要な身体疾患や症状・症候群を併存させながら療養生活を送る高齢者の評価と援助の方法を説明できる。 4. 高齢者に対する主要な検査、薬物療養、手術療法の特徴、ならびに入退院の援助の要点を説明できる。 5. 家族介護者ならびに介護負担の特徴と、介護状況に適した在宅サービスの選択方法について説明できる。 6. エンドオブライフケアとアドバンスケアプランニングの概略と意義を説明できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
老年看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	療養生活を送る高齢者の援助について、対象を理解し、健康・生活上の課題を把握するための情報整理とアセスメント、課題の解決をはかる看護計画の立案という一連の看護過程を、書面事例を通して具体的に学ぶ。また、要介護状態にある高齢者への日常生活動作の援助の方法を実践的に体験する。	1. 加齢変化の要素を加味した、高齢者の病態関連図を作成できる。 2. 療養生活を送る高齢者の看護に必要な情報の整理とアセスメントができる。 3. アセスメントを統合して、高齢者の全体像を描き、看護上の課題を説明できる。 4. 看護上の課題に対し、評価可能な看護目標、および実行性のある具体策を設定し、一貫性のある看護計画を立案できる。 5. 食事、清潔、排泄のセルフケアが困難な高齢者に対する援助の方法を説明できる。 6. グループワークを通して、グループメンバーに貢献する態度がとれる。	1. 加齢変化の要素を加味した、高齢者の病態関連図を作成できる。 2. 療養生活を送る高齢者の看護に必要な情報を選択するとともに、枠組みに沿って整理し、主だったアセスメントができる。 3. 枠組みごとのアセスメントの統合をはかり、優先順位の高い看護上の課題を説明できる。 4. 優先順位の高い看護上の課題に対し、評価可能な看護目標、および具体策を記述できる。 5. 食事介助と口腔ケア、排泄ケアを高齢者に実施する際の要点を説明できる。 6. グループワークの際に、担当する課題に取り組み、積極的に意見を述べるができる。
高齢者看護学実習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3・4	介護老人福祉施設に入所する高齢者の特徴、介護老人福祉施設の役割・機能、ならびに働く職種の専門性を理解するとともに、維持期あるいは重度期にある高齢者の看護に必要とされる知識と態度を修得する。	1. 介護老人福祉施設に入所する高齢者の生活・健康面の特徴を説明できる。 2. 入所している高齢者に必要な看護の特徴を説明できる。 3. 介護老人福祉施設の体制と、施設サービスの内容を説明できる。 4. 介護老人福祉施設で働く看護師が協力する職種の専門性ならびに多職種連携の重要性を説明できる。 5. 生活の場である介護老人福祉施設と治療の場である病院における看護師の役割の共通点と相違点を説明できる。	1. 介護老人福祉施設に入所する高齢者の生活・健康面の特徴の概略を説明できる。 2. 介護老人福祉施設における看護業務の要点を説明できる。 3. 介護老人福祉施設の体制と、施設サービスの内容を説明できる。 4. 介護老人福祉施設で働く多職種との連携・協力の実際を説明できる。 5. 生活の場である介護老人福祉施設と治療の場である病院における看護師の役割の共通点と相違点を説明できる。
高齢者看護学実習III	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	3・4	病院で入院生活を送る高齢者とその家族の健康・生活上の課題を理解するとともに、治療期にある高齢者の看護に必要とされる知識・技術・態度を修得する。	1. 病院で治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の課題を明確にできる。 2. 高齢者の生活歴、意向ならびに加齢変化の特徴を踏まえた個別性、実行性のある看護計画を立案することができる。 3. 退院後の生活や家族の状況を考慮した看護計画を立案することができる。 4. 看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた実践ができる。 5. 看護チームの一員に求められる看護学生として誠実な態度をとることができる。	1. 病院で治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の、優先順位の高い課題を明確にできる。 2. 優先順位の高い看護上の課題に対して、高齢者の生活歴、意向ならびに退院後の生活の場と加齢変化の特徴を踏まえた個別性、実行性のある具体的な看護計画を立案することができる。 3. 優先順位の高い看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた安全安楽に配慮した実践ができる。 4. 受け持ち患者（やその家族）に対して、看護学生として誠実な態度をとるよう努めることができる。
老年看護学実習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	地域で日常生活を営む高齢者の特徴、ならびに通所サービスなど社会資源の役割・機能を理解するとともに、健康維持・介護予防期にある高齢者の看護に必要な知識と態度を修得する。	1. 通所サービス、ならびにそこに併設する諸サービスの特徴を説明できる。 2. 利用者とのコミュニケーションにより、高齢者の多様性と個別性について説明できる。 3. 高齢者が地域での生活を継続するために必要な社会資源、バリアフリーなまちの要件を説明できる。 4. 高齢者とその家族の健康・生活を支える地域包括ケアシステムの要点を説明できる。 5. カンファレンスの意義を理解し、自らの意見を積極的に発言するとともに、他者の意見を尊重できる。	1. 通所サービスの制度的背景、提供している援助、従事している職種、看護職の役割を説明できる。 2. 利用者自ら話しかけ、コミュニケーションできる。 3. 利用者との交流により、関わった高齢者の個々の心身の特徴を説明できる。 4. 虚弱な高齢者が地域での生活を継続するために欠かせない社会資源や、安全なまちの要件を説明できる。 5. カンファレンスで、自らの意見を発言するとともに、他者の意見を聞き、受け止め、自分の意見を深めることができる。
老年看護学実習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3・4	介護老人福祉施設に入所する高齢者の特徴、介護老人福祉施設の役割・機能、ならびに働く職種の専門性を理解するとともに、維持期あるいは重度期にある高齢者の看護に必要とされる知識と態度を修得する。	1. 介護老人福祉施設に入所する高齢者の生活・健康面の特徴を説明できる。 2. 入所している高齢者に必要な看護の特徴を説明できる。 3. 介護老人福祉施設の体制と、施設サービスの内容を説明できる。 4. 介護老人福祉施設で働く看護師が協力する職種の専門性ならびに多職種連携の重要性を説明できる。 5. 生活の場である介護老人福祉施設と治療の場である病院における看護師の役割の共通点と相違点を説明できる。	1. 介護老人福祉施設に入所する高齢者の生活・健康面の特徴の概略を説明できる。 2. 介護老人福祉施設における看護業務の要点を説明できる。 3. 介護老人福祉施設の体制と、施設サービスの内容を説明できる。 4. 介護老人福祉施設で働く多職種との連携・協力の実際を説明できる。 5. 生活の場である介護老人福祉施設と治療の場である病院における看護師の役割の共通点と相違点を説明できる。
老年看護学実習III	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	3・4	病院で入院生活を送る高齢者とその家族の健康・生活上の課題を理解するとともに、治療期にある高齢者の看護に必要とされる知識・技術・態度を修得する。	1. 病院で治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の課題を明確にできる。 2. 高齢者の生活歴、意向ならびに加齢変化の特徴を踏まえた個別性、実行性のある看護計画を立案することができる。 3. 退院後の生活や家族の状況を考慮した看護計画を立案することができる。 4. 看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた実践ができる。 5. 看護チームの一員に求められる看護学生として誠実な態度をとることができる。	1. 病院で治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の、優先順位の高い課題を明確にできる。 2. 優先順位の高い看護上の課題に対して、高齢者の生活歴、意向ならびに退院後の生活の場と加齢変化の特徴を踏まえた個別性、実行性のある具体的な看護計画を立案することができる。 3. 優先順位の高い看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた安全安楽に配慮した実践ができる。 4. 受け持ち患者（やその家族）に対して、看護学生として誠実な態度をとるよう努めることができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
小児看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	子どもの成長発達の促進、および、健康の維持増進を図るために必要な援助に関して、基礎的知識と実践力を習得する。また、療養を必要とする子どもに対して適切な看護を提供するために、その根拠を理解した上で基本的な小児看護技術を習得する。さらに、子どもの健康、発達、および生活を理解した上で、健康障がいのある子どものもつ援助を要する課題に対して、適切な援助を導く一連の看護過程について、演習を通して習得する。	1. 子どもの特性を理解し、発達段階に応じた子どもを尊重した関わり方が習得できる。（関心・意欲・態度） 2. 「小児看護学概論」および「小児看護学援助論」の学習内容をもとに、技術演習を通して子どもの特徴をふまえた看護実践の方法について、発達段階による違いを考慮して説明できる。（知識・理解） 3. 小児看護に特徴的な基本技術について発達段階による違いを理解し、演習を通して実践できる。（技能） 4. 健康障がいがある子どもへの看護援助の方法について、根拠とともに具体的に説明できる。（知識・理解） 5. ペーパーペイシエントを用いて、健康障がいがある子どもとその家族に対する看護計画を、適切な優先順位を考慮して立案できる。（思考・判断・表現） 6. 演習を通して、アセスメントにおける自身の思考プロセスについて、根拠を提示しながら言語化できる。（思考・判断・表現）	1. 子どもの特性を理解し、子どもを尊重した関わり方が習得できる。（関心・意欲・態度） 2. 「小児看護学概論」および「小児看護学援助論」の学習内容をもとに、技術演習を通して子どもの特徴をふまえた看護実践の方法について説明できる。（知識・理解） 3. 小児看護に特徴的な基本技術を理解し、演習を通して実践できる。（技能） 4. 健康障がいがある子どもへの看護援助の方法について説明できる。（知識・理解） 5. ペーパーペイシエントを用いて、健康障がいがある子どもとその家族に対する看護計画を立案できる。（思考・判断・表現） 6. 演習を通して、アセスメントにおける自身の思考プロセスを言語化できる。（思考・判断・表現）
小児看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	わが国における小児看護の変遷、小児看護の対象や基本となる理念、子どものもつ尊厳と権利、子どもの成長発達と生活の特徴や子どもを取り巻く社会環境、および、小児保健の動向について学習し、子どもと家族を総合的に理解した上で小児看護における役割や活動、課題を学ぶ。子どもをめぐる法律や政策についても学習し、幅広い視野から小児看護を考える能力を養う。	1. 子どもと家族がもつ尊厳と権利について、状況をふまえて説明できる。（知識・理解） 2. 子どもの成長発達の特徴とその評価方法について、発達段階ごとに説明できる。（知識・理解） 3. 子どもの生活の特徴について、発達段階ごとに説明できる。（知識・理解） 4. 子どもの家族や取り巻く社会の状況を説明し、子どもに及ぼす影響について説明できる。（思考・判断・表現） 5. 子どもの養育にかかわる法、政策、施策について説明し、現状と課題を見いだすことができる。（知識・理解） 6. 小児看護の基本的理念と役割を説明し、現状と課題を見いだすことができる。（知識・理解）	1. 子どもと家族がもつ尊厳と権利を説明できる。（知識・理解） 2. 子どもの成長発達の特徴とその評価方法が説明できる。（知識・理解） 3. 子どもの生活の特徴が説明できる。（知識・理解） 4. 子どもの家族や取り巻く社会の状況について説明できる。（思考・判断・表現） 5. 子どもの養育にかかわる法、政策、施策について説明できる。（知識・理解） 6. 小児看護の基本的理念と役割が説明できる。（知識・理解）
小児看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	健康レベルが子どもの成長発達や日常生活、さらには家族に与える影響を理解した上で、さまざまな状況にある子どもと家族について、援助を要する課題をとらえる力を養う。さらに、子どもと家族それぞれがもつ能力を活かした看護援助について学習する。	1. 子どもに特徴的な健康障がいとその症状について、病態と治療および看護を含めて説明できる（知識・理解） 2. 健康障がいがある子どもと家族に与える影響について、発達段階の特徴を踏まえて説明できる。（知識・理解） 3. 健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について、子どもの状況を踏まえて説明できる。（知識・理解） 4. ペーパーペイシエントを用いて、子どもと家族を発達、生活、健康の三側面から情報を整理し、統合することができる。（情報収集）（技能） 5. ペーパーペイシエントを用いて、子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見だし、優先順位を付けて説明することができる。（アセスメント・計画立案）（思考・判断・表現） 6. 非日常的な環境におかれた子どもと家族について、必要な看護を含めて説明できる。（思考・判断・表現）	1. 子どもに特徴的な健康障がいとその症状について説明できる（知識・理解） 2. 健康障がいがある子どもと家族に与える影響を説明できる。（知識・理解） 3. 健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護が説明できる。（知識・理解） 4. ペーパーペイシエントを用いて、子どもと家族を発達、生活、健康の三側面から情報を整理することができる。（情報収集）（技能） 5. ペーパーペイシエントを用いて、子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見いだすことができる。（アセスメント・計画立案）（思考・判断・表現） 6. 非日常的な環境におかれた子どもと家族について説明できる。（思考・判断・表現）
小児看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	3・4	様々な疾病や障がい、および、健康レベルにより医療を必要とする子どもと家族を総合的に理解し、健康上および成長発達上の問題解決に向けた援助を通して、小児看護に必要な知識・技術・態度を、外来と病棟実習を通して習得する。また、子どもの生活の場である地域と医療機関の連携について学ぶ。保育園における地域で生活している乳幼児の日常生活と遊びを通して、小児期の特性を理解し、成長・発達を促すかかわりの実際を学ぶ。子どもと家族の状態をとらえて看護過程を展開し、援助が必要なケアの内容および方法を導き看護を実践する能力を習得する。	1. 健康レベルや発達段階、生活状況ふまえて、子どもの特性を理解し、子どもを尊重してかかわることができる。（関心・意欲・態度） 2. 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面をふまえて、総合的に情報を収集できる。（情報収集）（技能） 3. 子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見だし、優先順位を付けて説明できる。（アセスメント・計画立案）（思考・判断・表現） 4. 子どもと家族を支援する看護を実践し、評価・修正できる。（看護実践）（思考・判断・表現） 5. 家庭療養、継続看護、および、健康な子どもの成長発達を支援する外来看護の特徴を説明し、自身の考えを述べることができる。（知識・理解） 6. 子どもを取り巻く地域社会、医療、保健、福祉、教育の連携の中で、小児看護の役割が説明できる。（知識・理解）	1. 子どもの特性を理解し、子どもを尊重してかかわることができる。（関心・意欲・態度） 2. 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面から情報を収集できる。（情報収集）（技能） 3. 子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見いだすことができる。（アセスメント・計画立案）（思考・判断・表現） 4. 子どもと家族を支援する看護を実践できる。（看護実践）（思考・判断・表現） 5. 家庭療養、継続看護、および、健康な子どもの成長発達を支援する外来看護の特徴を説明することができる。（知識・理解） 6. 病棟、外来、保育園の各施設における多職種連携の中で、小児看護の役割が説明できる。（知識・理解）
母性看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児とその家族の事例を取り上げ、ウエルネスレベルの看護診断の技法を用いて、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過を家族の役割等も含めてアセスメントし、それに応じた援助のあり方について考え、評価を行うという一連のプロセスの基本的な展開方法を学習する。また妊娠・分娩・産褥期・新生児期の経過や適応をとらえる技術に関する基本的知識と実践能力を、演習を通して修得する。	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と健康診査に必要な情報収集と観察のポイントが説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥にある母児の事例について、収集した情報をアセスメントし、ウエルネスレベルの看護過程に基づき、計画立案できる。 3. コミュニケーションを含めてヘルスアセスメントを実施し、母性看護の基本的な援助技術の実際を説明できる。	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と健康診査に必要な情報収集と観察のポイントが説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥にある母児の事例について、収集した情報をアセスメントし、ウエルネスレベルの看護過程に基づき、計画立案できる。 3. コミュニケーションを含めてヘルスアセスメントを実施し、母性看護の基本的な援助技術の実際を説明できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
母性看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	Reproductive Health, Women's Healthという視点から、母性の各発達段階における身体的・心理的・社会的特性について学習する。またライフサイクルに応じた女性の健康を保つ意義と課題や、母性を取り巻く環境や地域システムなどを理解し、母性看護の意義と援助のための基本的知識・態度とそこに関わる看護者の役割を学ぶ。	1. 母性看護の特徴・発達段階と身体的・心理的・社会的特性について説明できる。 2. 人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について説明できる。 3. 母子保健の動向及び母性の健康を守る制度や法律について説明できる。 4. 母性の健康に影響を及ぼす倫理・環境要因について説明できる。 5. Reproductive Healthを取り巻く家族・社会状況・国際状況について理解でき、また、それらを踏まえた母性看護の課題について説明できる。 6. 母性看護の対象となる女性のセルフケア能力を基本とした援助について説明できる。	1. 母性看護の特徴・発達段階と身体的・心理的・社会的特性について説明できる。 2. 人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について説明できる。 3. 母子保健の動向及び母性の健康を守る制度や法律について説明できる。 4. 母性の健康に影響を及ぼす倫理・環境要因について説明できる。 5. Reproductive Healthを取り巻く家族・社会状況・国際状況について、また、それらを踏まえた母性看護の課題について理解できる。 6. 母性看護の対象となる女性のセルフケア能力を基本とした援助について理解できる。
母性看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を理解し、各時期において対象に起こる変化や適応状態をアセスメントし、母性看護の対象に関わる基本的姿勢と基礎的技術を学ぶ。また対象とその家族の持つ課題や健康問題について理解し、周産期を正常に経過し、異常に逸脱しないよう提供されるケアについて、対象自身のセルフケアの能力を活かした援助の基本的知識、技術、態度を修得する。	1. 妊娠期の全身の変化および生殖器の変化を理解し、妊婦が妊娠期の心身の変化に適応し、母・胎児ともに健康で快適な生活を送り、セルフケア能力を活かした援助について説明できる。 2. 分娩の機序を理解でき、母・胎児が安全かつ安楽に分娩期を過ごせる援助について説明できる。 3. 産褥期における全身・生殖器の復古過程と泌乳のメカニズムが理解でき、産褥期の課題につながるセルフケア能力を活かした援助を説明できる。 4. 新生児の健康状態・発育状態を理解し、胎外生活への適応を円滑に行える環境を整えること、援助について説明できる。 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常から逸脱して起こりやすい異常について説明できる。	1. 妊娠期の全身の変化および生殖器の変化を理解し、妊婦が妊娠期の心身の変化に適応し、母・胎児ともに健康で快適な生活を送り、セルフケア能力を活かした援助について説明できる。 2. 分娩の機序を理解でき、母・胎児が安全かつ安楽に分娩期を過ごせる援助について説明できる。 3. 産褥期における全身・生殖器の復古過程と泌乳のメカニズムが理解でき、産褥期の課題につながるセルフケア能力を活かした援助を説明できる。 4. 新生児の健康状態・発育状態を理解し、胎外生活への適応を円滑に行える環境を整えること、援助について説明できる。 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常から逸脱して起こりやすい異常について説明できる。
母性看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	3・4	妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児におけるウェルネスレベルの看護過程の展開を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における事例に基づき、計画立案までの一連の看護過程が展開でき、展開された看護過程を評価できる能力を養う。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期をアセスメントするのに必要な観察のポイントが説明できるようにするとともに、健康診査を実施するための情報の収集の項目・方法を述べることができ、コミュニケーション能力を含めてフィジカルアセスメントを実施し、看護ケアを実践する。	1. 妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過を理解し、各時期に必要な援助の実際を理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開を理解できる。 3. 母子とその家族との関係・退院後の生活について理解し、母子保健活動における関連機関の役割と社会資源の活用について説明できる。 4. 実習を通して生命の重要性や自己の母性および生命の尊厳について理解し、専門職としての倫理的責務について説明できる。 5. 実習を通して母性看護活動を担う専門職の一員としての姿勢や態度を説明できる。	1. 妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過を理解し、各時期に必要な援助の実際を理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開を理解できる。 3. 母子とその家族との関係・退院後の生活について理解し、母子保健活動における関連機関の役割と社会資源の活用について説明できる。 4. 実習を通して生命の重要性や自己の母性および生命の尊厳について理解し、専門職としての倫理的責務について説明できる。 5. 実習を通して母性看護活動を担う専門職の一員としての姿勢や態度を説明できる。
精神看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	精神に機能障がいをもつ人に必要な治療的介入や看護技術を、法律・制度を踏まえた上で、実際の演習やグループワーク等を通して学ぶ。またコミュニケーション技術については、ロールプレイングを行い、プロセスレコードに記載することで、自己の振り返りを行い、自己洞察に繋がるよう学びを深める。看護過程の展開については、事例を用いて学習を深め、精神機能に障がいをもつ人とその家族に必要な看護、支援について、その人がその人らしく生活を送ることができるという視点から学習する。	1. 精神に機能障がいをもつ人に必要な治療的介入や看護技術について説明できる。 2. 精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。	1. 精神に機能障がいをもつ人に必要な治療的介入や看護技術について理解して、概ね説明できる。 2. 精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を計画立案することができる。
精神看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	人間の精神機能の理解を基盤に、健全なこころ（精神）の発達とそれに影響を及ぼす要因及び精神の危機的状況について理解する。また、あらゆるライフステージにおいて、健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、方法を学ぶ。さらに、精神保健の歴史の変遷から人権を踏まえた処遇のあり方を考え、精神医療に関連する法律や精神科看護をとりまく諸問題について理解を深める。	1. こころの健康、こころの発達について説明できる。 2. 発達課題について説明できる。 3. 健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、対象、方法を説明できる。 4. 精神保健の歴史や法律などを学び、精神看護を取り巻く諸問題について理解を深める。	1. こころの健康、こころの発達について概ね説明できる。 2. 発達課題について説明できる。 3. 健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、対象、方法を概ね説明できる。 4. 精神保健の歴史や法律などを学び、精神看護を取り巻く諸問題について概ね説明できる。
精神看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	人間生活と精神機能との関係を理解し、精神機能の障がい及び日常生活および身体への影響について、看護の視点から考える。また、精神機能に障がいをもつ人とその家族が抱える健康問題について、代表的な精神疾患の知識を基盤に看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技法を活用し、看護の方向性を考える。特に、精神看護学領域で用いられる看護理論について学び、事例を通して看護過程の展開について理解をする。さらに、看護師自身のメンタルヘルス、ストレスマネジメントにも触れる。	1. 精神の障がいによる日常生活および身体に及ぼす影響を説明できる。 2. 精神疾患の代表的な症状とアセスメントの方法を説明できる。 3. 精神科における薬物療法について説明できる。	1. 精神の障がいによる日常生活および身体に及ぼす影響を概ね説明できる。 2. 精神疾患の代表的な症状とアセスメントの方法を概ね説明できる。 3. 精神科における薬物療法について概ね説明できる。
精神看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	3・4	精神機能に障がいもち入院治療を受けている人、および精神機能に障がいもち地域で生活している人に必要な看護について具体的に学び、精神看護の実践が行える基礎知識、技術を修得する。また、精神機能に障がいをもつ人とのかわりを通して、コミュニケーション技術について学びを深め、さらにプロセスレコードを用いて自己を振り返り、自己洞察について理解を深める。さらに、精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を学習する。	<病院> 1. 精神に障がいをもつ人が入院している施設の概要を説明できる。 2. 精神に障がいもち入院している人の状況を評価できる。 3. 精神に障がいをもつ人に必要な看護を計画し、実施、評価できる。 4. 精神に障がいをもつ人とのかわりを通して自己洞察を深めることができる。 5. 精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を見いだすことができる。 <社会復帰施設> 1. 精神障がい者社会復帰施設の概要および取り巻く制度・法律について説明できる。 2. 地域で生活している精神に障がいをもつ人が活用している施設の概要を説明できる。 3. 施設で計画する活動に参加して、精神保健看護の役割、他職種との連携とその実際を知る	<病院> 1. 精神に障がいをもつ人が入院している施設の概要を概ね説明できる。 2. 精神に障がいもち入院している人の状況を理解し評価できる。 3. 精神に障がいをもつ人に必要な看護を計画し、実施、評価できる。 4. 精神に障がいをもつ人とのかわりを通して自己洞察を深めることができる。 5. 精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を見いだすことができる。 <社会復帰施設> 1. 精神障がい者社会復帰施設の概要および取り巻く制度・法律について概ね説明できる。 2. 地域で生活している精神に障がいをもつ人が活用している施設の概要を概ね説明できる。 3. 施設で計画する活動に参加して、精神保健看護の役割、他職種との連携とその実際を知る

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
地域看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	千代田区内の特定地域を対象とし、既存資料の分析、地区踏査、住民・キーパーソンのインタビューを通じて、地域の特性をアセスメントし顕在的、潜在的な健康課題を査定する地域看護診断の方法を実践的に修得するとともに、住民や多職種多機関と連携しながら課題に応じた支援を行なう計画立案に必要な基礎的能力を修得する。	<ol style="list-style-type: none"> 健康レベルの高い対象者も含めた予防的支援の必要性と意義について、具体的な演習体験を根拠としながら述べるができる。 住民・多職種多機関との連携の意義や連携に必要な要素について、具体的な演習体験を根拠としながら述べるができる。 既存資料、インタビュー、地区踏査から、目的に沿った情報を収集し、それを理論的枠組みを活用しながら整理・統合できる。 地域の特性を踏まえた健康課題の査定を適切に行い、一定の効果が見込まれる支援策を立案することができる。 地域の健康課題とその支援策について、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。 インタビュー対象者に敬意を持ち良好な関係のもとインタビューを行える。 多職種や住民との連携・協働への関心を深め、連携・協働に向けて自身が取り組むべき課題を考察できる。 グループメンバーと協力しながら、自身の役割を遂行するとともに、他のメンバーの力を引き出すことに貢献できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 健康レベルの高い対象者も含めた予防的支援の必要性と意義について、具体的な演習体験を根拠としながら一応述べるができる。 住民・多職種多機関との連携の意義や連携に必要な要素について、具体的な演習体験を根拠としながら一応述べるができる。 既存資料、インタビュー、地区踏査から情報を収集し、それを整理・統合できる。 地域の特性を踏まえた健康課題の査定を概ね適切に行い、一応支援策を立案することができる。 地域の健康課題とその支援策について、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。 インタビュー対象者に敬意を持ち概ね良好な関係のもとインタビューを行える。 多職種や住民との連携・協働への一定の関心を持ち、連携・協働に向けて自身が取り組むべき課題を一応考察できる。 グループメンバーと協力しながら、自身の役割を遂行に取り組むことができる。
在宅看護概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	在宅療養者と家族の生活の質の向上を支援する看護実践の基盤となる、在宅看護の概念や特性、理念、対象となる療養者・家族と地域社会の関係性、対象を支える社会資源の役割、並びに地域包括ケアシステムと諸外国における在宅ケアシステムについて学修する。また、在宅看護の援助の基本となるケアマネジメント及び継続看護・退院支援、さらに、在宅看護の倫理を学修することにより、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 在宅ケア・在宅看護を取り巻く社会的背景を踏まえ、在宅看護学を学習し、看護実践に活用する意義が理解できる。 在宅看護の理念について、対象と実践の特質と結びつけて理解することができる。 在宅療養を支える制度や社会資源を活用しながら在宅療養者とその家族を支援する基盤となるケアマネジメントの基礎が理解できる。 在宅看護の倫理の特質を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 在宅ケア・在宅看護を取り巻く社会的背景を踏まえ、在宅看護学を学習し、看護実践に活用する意義が概ね理解できる。 在宅看護の理念について、対象と実践の特質と結びつけて概ね理解することができる。 在宅療養を支える制度や社会資源を活用しながら在宅療養者とその家族を支援する基盤となるケアマネジメントの基礎が概ね理解できる。 在宅看護の倫理の特質を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について概ね理解することができる。
在宅看護援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	在宅療養者とその家族の生活を支える（生活の質を高める）ための基本的な支援方法（食事・栄養、排泄、清潔・整容、移動、福祉用具・住宅改修、医療機器管理）とリスクマネジメント、並びに高齢者虐待の予防と対応を学修する。また、社会資源の活用を学修することにより、在宅看護の特徴を踏まえた支援の展開方法を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養者とその家族の生活を支える（生活の質を高める）ための基本的な支援方法について説明できる。 在宅ケアにおけるリスクマネジメントの原則と方法、対応について説明できる。 在宅ケアにおける高齢者虐待の予防と対応について説明できる。 在宅ケアにおける社会資源の活用のための原則と方法、並びに看護職の役割について説明できる。 在宅ケアにおける主な療養者と家族への援助方法と社会資源の活用について説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養者とその家族の生活を支える（生活の質を高める）ための基本的な支援方法について概ね説明できる。 在宅ケアにおけるリスクマネジメントの原則と方法、対応について概ね説明できる。 在宅ケアにおける高齢者虐待の予防と対応について概ね説明できる。 在宅ケアにおける社会資源の活用のための原則と方法、並びに看護職の役割について概ね説明できる。 在宅ケアにおける主な療養者と家族への援助方法と社会資源の活用について概ね説明できる。
在宅看護援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	在宅看護の看護過程と看護ケア・ケアマネジメントを展開する方法について、在宅看護の代表的な対象の特性と発達段階を踏まえたアセスメント、支援・評価計画立案の一連のプロセスを学修することを目的とする。また、在宅看護における家庭訪問技術、コミュニケーション技術の基本を修得し、在宅看護とケアマネジメントの実践方法への理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、必要な情報を収集し、アセスメントが実施できる。 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、看護ケアとケアマネジメントの実施計画並びに評価計画を立案することができる。 訪問看護における家庭訪問及びコミュニケーション技術の基本を習得することができる。 在宅看護とケアマネジメント実践の原則と方法への理解を深め、自身の言葉で説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、必要な情報を収集し、アセスメントが概ね実施できる。 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、看護ケアとケアマネジメントの実施計画並びに評価計画を概ね立案することができる。 訪問看護における家庭訪問及びコミュニケーション技術の基本を概ね習得することができる。 在宅看護とケアマネジメント実践の原則と方法への理解を深め、自身の言葉で概ね説明できる。
地域看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	地域（コミュニティ）で生活する全ての個人・家族、集団、地域全体を対象とし、各々の顕在的・潜在的な健康課題に応じた支援を行いつつ、多職種多機関並びに住民と協働して健康で暮らしやすい地域づくりを行う地域看護の特質と、その基盤となる理念・理論について学修する。また、地域看護の主要な実践4領域である行政・在宅・産業・学校の特性と、各々における保健・看護活動について学修する。これらの学修を通じて地域看護学の基本となる考え方を身につけるとともに、看護実践における地域看護学の学修意義について理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 地域看護の基盤となる概念、理念、理論について説明できる。 地域看護の目的、対象並びに支援を行う健康課題と支援方法の特徴について述べることができる。 地域看護の4つの活動領域の特徴と共通性について述べるができる。 地域看護学を学習する意義について、自分の考えを述べることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域看護の基盤となる概念、理念、理論について概ね説明できる。 地域看護の目的、対象並びに支援を行う健康課題と支援方法の特徴について概ね述べることができる。 地域看護の4つの活動領域の特徴と共通性について概ね述べることができる。 地域看護学を学習する意義について、自分の考えを概ね述べるができる。
地域看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	2	地域（コミュニティ）の健康課題をアセスメントし、支援計画を立案し、評価する方法と、支援計画の中で地域（コミュニティ）で生活する個人・家族、集団を支援する方法について、その基盤となる理論と基礎的知識について学修する。これらの学修を通じて、疾病のハイリスク者から健康レベルの高い人までを対象とし、潜在化した健康課題やウェルネス型の健康課題に対して予防活動、健康増進活動を行う地域看護の展開方法について理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 地域（コミュニティ）の健康課題をアセスメントし、支援計画を立案し、評価する方法と、その基盤となる理論について説明できる。 地域（コミュニティ）で生活する疾病のハイリスク者から健康レベルの高い人を対象に、個人・家族並びに集団として支援する方法と、その基盤となる理論について説明できる。 実際に千代田区の健康に関わる情報を適切に収集し、予防と健康増進の視点を持って健康課題を考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域（コミュニティ）の健康課題をアセスメントし、支援計画を立案し、評価する方法と、その基盤となる理論について概ね説明できる。 地域（コミュニティ）で生活する疾病のハイリスク者から健康レベルの高い人を対象に、個人・家族並びに集団として支援する方法と、その基盤となる理論について概ね説明できる。 実際に千代田区の健康に関わる情報を概ね収集し、予防と健康増進の視点を持って健康課題を考えてみるができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
地域在宅看護学実習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3・4	在宅療養者とその家族のニーズおよび健康課題をアセスメントし、地域のケアシステムと連携しながら、在宅療養者とその家族のQOLを高めるために必要な援助を行う一連の看護活動の展開方法と訪問看護師の役割を体験的に理解し、在宅看護実践に必要な基礎的能力と態度を身につけることを目標とし、訪問看護ステーションにおいて実習を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて説明できる。 訪問看護師が多職種多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて説明できる。 在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアデマンド（必要としているセルフケア要件）を査定することができる。 在宅療養者のセルフケア能力（セルフケア行為力）と介護者の介護力や社会資源によるサポート状況（依存的ケア行為力）を把握し、満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）を査定することができる。 看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）に対して行うべき看護ケア（看護行為）の種類（代行、指導、教育、支持、環境調整（ケアマネジメント））とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を計画することができる。 在宅ケアにおける訪問看護師の役割を理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて概ね説明できる。 訪問看護師が多職種多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて概ね説明できる。 在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアデマンド（必要としているセルフケア要件）を概ね査定することができる。 在宅療養者のセルフケア能力（セルフケア行為力）と介護者の介護力や社会資源によるサポート状況（依存的ケア行為力）を把握し、満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）を概ね査定することができる。 看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）に対して行うべき看護ケア（看護行為）の種類（代行、指導、教育、支持、環境調整（ケアマネジメント））とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を概ね計画することができる。 在宅ケアにおける訪問看護師の役割を理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を概ね身につけることができる。
地域在宅看護学実習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3・4	地域で生活する個人・家族、集団、地域の多様なニーズおよび健康課題に対して、地域特性に応じて展開される地域保健福祉活動の実際と看護職の役割について体験的に理解し、地域看護実践に必要な基礎的能力および態度を身につけることを目標とし、地域包括支援センターにて家庭訪問、介護予防教室、認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、等の事業に参加する。また、実習を通じて地域包括支援センターの管轄地域の地域看護診断を行い、地域の特性と健康課題、支援方法の関係について理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 地域に暮らす住民（主として高齢者、以下同様）の様々な健康レベルの実際、並びに健康レベルに応じたニーズと健康課題について説明できる。加えて、地域の特性が健康課題に与える影響について説明できる。 住民の健康課題と地域の特性に応じた支援展開の工夫や特徴を説明できる。 個人・家族、集団、地域の各々を対象とした支援の展開方法の実際と、相互の関連性について説明することができる。 個人・家族のQOLを高めるために行う、社会資源の活用や多職種多機関連携の意義と看護職の役割について体験に基づき説明できる。 多職種多機関並びに住民と連携しながら地域全体の健康度を向上させるための活動の実際を理解し、その意義と看護職の役割について体験に基づき説明できる。 地域包括支援センターの活動を中心に、地域看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけている。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域に暮らす住民（主として高齢者、以下同様）の様々な健康レベルの実際、並びに健康レベルに応じたニーズと健康課題について概ね説明できる。加えて、地域の特性が健康課題に与える影響について概ね説明できる。 住民の健康課題と地域の特性に応じた支援展開の工夫や特徴を概ね説明できる。 個人・家族、集団、地域の各々を対象とした支援の展開方法の実際と、相互の関連性について概ね説明することができる。 個人・家族のQOLを高めるために行う、社会資源の活用や多職種多機関連携の意義と看護職の役割について体験に基づき概ね説明できる。 多職種多機関並びに住民と連携しながら地域全体の健康度を向上させるための活動の実際を理解し、その意義と看護職の役割について体験に基づき概ね説明できる。 地域包括支援センターの活動を中心に、地域看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を概ね身につけている。
在宅看護論実習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3・4	在宅療養者とその家族のニーズおよび健康課題をアセスメントし、地域のケアシステムと連携しながら、在宅療養者とその家族のQOLを高めるために必要な援助を行う一連の看護活動の展開方法と訪問看護師の役割を体験的に理解し、在宅看護実践に必要な基礎的能力と態度を身につけることを目標とし、訪問看護ステーションにおいて実習を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて説明できる。 訪問看護師が多職種多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて説明できる。 在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアデマンド（必要としているセルフケア要件）を査定することができる。 在宅療養者のセルフケア能力（セルフケア行為力）と介護者の介護力や社会資源によるサポート状況（依存的ケア行為力）を把握し、満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）を査定することができる。 看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）に対して行うべき看護ケア（看護行為）の種類（代行、指導、教育、支持、環境調整（ケアマネジメント））とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を計画することができる。 在宅ケアにおける訪問看護師の役割を体験的に理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて概ね説明できる。 訪問看護師が多職種多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて概ね説明できる。 在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアデマンド（必要としているセルフケア要件）を概ね査定することができる。 在宅療養者のセルフケア能力（セルフケア行為力）と介護者の介護力や社会資源によるサポート状況（依存的ケア行為力）を把握し、満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）を概ね査定することができる。 看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）に対して行うべき看護ケア（看護行為）の種類（代行、指導、教育、支持、環境調整（ケアマネジメント））とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を概ね計画することができる。 在宅ケアにおける訪問看護師の役割を体験的に理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を概ね身につけることができる。
在宅看護論実習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3・4	地域で生活する個人・家族、集団、地域の多様なニーズおよび健康課題に対して、地域特性に応じて展開される地域保健福祉活動の実際と看護職の役割について体験的に理解し、地域看護実践に必要な基礎的能力および態度を身につけることを目標とし、地域包括支援センターにて家庭訪問、介護予防教室、認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、等の事業に参加する。また、実習を通じて地域包括支援センターの管轄地域の地域看護診断を行い、地域の特性と健康課題、支援方法の関係について理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 地域に暮らす住民（主として高齢者、以下同様）の様々な健康レベルの実際、並びに健康レベルに応じたニーズと健康課題について説明できる。加えて、地域の特性が健康課題に与える影響について説明できる。 住民の健康課題と地域の特性に応じた支援展開の工夫や特徴を説明できる。 個人・家族、集団、地域の各々を対象とした支援の展開方法の実際と、相互の関連性について説明することができる。 個人・家族のQOLを高めるために行う、社会資源の活用や多職種多機関連携の意義と看護職の役割について体験に基づき説明できる。 多職種多機関並びに住民と連携しながら地域全体の健康度を向上させるための活動の実際を理解し、その意義と看護職の役割について体験に基づき説明できる。 地域包括支援センターの活動を中心に、地域看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけている。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域に暮らす住民（主として高齢者、以下同様）の様々な健康レベルの実際、並びに健康レベルに応じたニーズと健康課題について概ね説明できる。加えて、地域の特性が健康課題に与える影響について概ね説明できる。 住民の健康課題と地域の特性に応じた支援展開の工夫や特徴を概ね説明できる。 個人・家族、集団、地域の各々を対象とした支援の展開方法の実際と、相互の関連性について概ね説明することができる。 個人・家族のQOLを高めるために行う、社会資源の活用や多職種多機関連携の意義と看護職の役割について体験に基づき概ね説明できる。 多職種多機関並びに住民と連携しながら地域全体の健康度を向上させるための活動の実際を理解し、その意義と看護職の役割について体験に基づき概ね説明できる。 地域包括支援センターの活動を中心に、地域看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を概ね身につけている。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
総合技術演習（OSCE）	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	3	既習の知識・技術および態度を総合し、臨床で実施する頻度の高い基本的な援助について、対象の発達段階・健康状態に合わせて、安全・安楽に、倫理的な原則に基づいて実施するための演習と確認試験を行う。	1. 既習の知識・技術を用いて、臨床で実施する頻度の高い基本的な援助を行うことができる。 2. 安全・安楽に加え、倫理的な配慮を行いながら、対象の発達段階・健康状態に合わせた援助を行うことができる。 3. 自己の臨床能力の課題を明確にし、必要な自己学習に主体的に取り組むことができる。	1. 既習の知識・技術を用いて、臨床で実施する頻度の高い基本的な援助を行うことができる。 2. 安全・安楽に留意し、倫理的な配慮を行いながら、対象に合わせた援助を行うことができる。 3. 自己の臨床能力の課題を把握し、自己学習に取り組むことができる。
障害者コミュニケーション	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	2	障害者とのコミュニケーションを確立するためには、障害者の抱える問題について医学・福祉・教育・文化などの側面から考察し理解を深める必要がある。それに次いで、手話、指文字、補聴器、筆談、空書、ジェスチャーなどのコミュニケーションの技法について学習し、実際にそれを体験し伝え合う。授業を通じて障害者とのコミュニケーションの在り方を考える。	1. 障害者の抱える問題について、医学・福祉・教育・文化など多方面から理解できるようになる。 2. 障害者に用いられる各種のコミュニケーション技法を体験し、理解できるようになる。 3. 障害者とのコミュニケーションの在り方について、説明できるようになる。	1. 障害者の抱える問題について、概ね理解できるようになる。 2. 障害者に用いられる各種のコミュニケーション技法を体験し、その要点を理解できるようになる。 3. 障害者とのコミュニケーションの在り方の概略を説明できるようになる。
カウンセリング	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	カウンセリングの定義、理論、方法を理解し、保健医療福祉における対象の苦悩の傾聴、治療選択場面での意思決定への支援、認知や行動変容などの問題解決的支援などの活用方法を学習する。また、ベッドサイドで対患者関係を築くためのコミュニケーションスキルの活用や看護者としてのメンタルヘルスのためのセルフカウンセリングについても体験的に学習する。	1. カウンセリングの定義、理論について説明できる。 2. カウンセリングの方法を理解し、傾聴、支援について説明できる。 3. 自身の体験を通して看護場面におけるコミュニケーションスキルの活用について述べられる。 4. セルフカウンセリングの必要性と方法を説明できる。	1. カウンセリングの定義、理論について説明できる。 2. カウンセリングの方法を理解し、傾聴、支援について部分的に説明できる。 3. 自身の体験を通して看護場面におけるコミュニケーションスキルの活用について部分的に述べられる。 4. セルフカウンセリングの必要性を説明できる。
クリティカルケア	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3・4	人々が急激に健康を破綻したときの身体変化のメカニズムとケアの特殊性を学ぶ。また、クリティカルケアの概念、および機能と役割を理解し、クリティカルケアの対象の特徴を理解した上で、ケアおよび管理について学習する。	1. クリティカルケアおよびクリティカルケア看護の概念について、概要と特徴が説明できる。（知識・理解） 2. クリティカルケアの対象について特徴が具体的に説明できる。（知識・理解） 3. クリティカルケア領域の主要病態の特徴とケアについて根拠をふまえて論理的に説明できる。（知識・理解） 4. クリティカルケア領域で用いる理論について、活用できる場面をふまえて説明できる。（知識・理解） 5. クリティカルケアにおける安全管理と倫理的側面について患者の状態をふまえて説明できる。（思考・判断・表現） 6. クリティカルケア領域における連携と看護の役割について、現状と課題をふまえて説明できる。（思考・判断・表現）	1. クリティカルケアおよびクリティカルケア看護の概念が説明できる。（知識・理解） 2. クリティカルケアの対象について特徴が説明できる。（知識・理解） 3. クリティカルケア領域の主要病態の特徴とケアについて説明できる。（知識・理解） 4. クリティカルケア領域で用いる理論について概要が説明できる。（知識・理解） 5. クリティカルケアにおける安全管理と倫理的側面について説明できる。（思考・判断・表現） 6. クリティカルケア領域における連携と看護の役割について説明できる。（思考・判断・表現）
緩和ケア・終末期ケア	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3・4	がん患者の緩和ケアとしての疼痛マネジメント、人生の終末期を迎える患者への発達課題の遂行やQuality of lifeを向上させるケアについて具体的に学習する。また、がん患者のケアとして、告知、生命維持装置、リビングウィル、安楽死などに関連したテーマを取り上げ、がん終末期医療の現状と課題についても討議する。	1. 緩和ケア、終末期ケアの概念について具体的に説明できる。 2. 緩和ケアの方法について具体的に説明できる。 3. 終末期ケアにおける課題について意見交換ができる。 4. がん患者への告知、生命維持装置、リビングウィル、安楽死について自分の意見とその根拠が述べられる。	1. 緩和ケア、終末期ケアの概念の概要が説明できる。 2. 緩和ケアの方法について部分的に説明できる。 3. 終末期ケアにおける課題について自分の意見を述べられる。 4. がん患者への告知、生命維持装置、リビングウィル、安楽死について自分の意見が述べられる。
家族看護学	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	家族看護学の誕生・発展の背景、家族看護の概念と家族支援における基本的な理論、および、看護の役割・機能・アプローチの特徴について学習する。また、社会との相互作用の中で家族が果たすべき役割や抱えている課題について学ぶ。家族の発達段階および看護の領域・場における家族看護の特徴を学び、具体的な事例を通して、アセスメントや援助方法を理解する。これらの学びを通して、家族の健康とQOLの向上を目指した家族看護に必要な支援方法を学ぶ。	1. 家族看護の歴史、概念につき説明できるようになる。 2. 家族支援の理論と方法につき理解できるようになる。 3. 家族と社会との関連につき理解できるようになる。 4. 具体的な事例を学習することにより、家族看護におけるアセスメント、援助方法につき理解できるようになる。	1. 家族看護の歴史、概念につき、概ね説明できるようになる。 2. 家族支援の理論と方法につき、概ね理解できるようになる。 3. 家族と社会との関連につき、概ね理解できるようになる。 4. 具体的な事例を学習することにより、家族看護におけるアセスメント、援助方法につき理解できるようになる。
災害看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	災害の概念と歴史、その種類と構造について理解し、災害支援体制や災害に関連する法律や政策・施策について学習する。災害サイクル各期における健康障がいの特徴と、災害医療および災害看護の活動の実際について学ぶとともに、災害看護の概念、および活動の実際と課題について学ぶ。	1. 災害の概念・災害の種類・災害の歴史について要点をまとめて説明できる。（知識・理解） 2. 災害サイクルと被災者ニーズについて各期の特徴をまとめて説明できる。（知識・理解） 3. 災害に関する法律や政策・施策について現状と課題が説明できる。（知識・理解） 4. 災害時に必要なネットワークについて、関係機関の役割をふまえて説明できる。（知識・理解） 5. 災害サイクル各期における特徴をふまえて、災害医療および災害看護について、その役割と活動の実際が説明できる。（知識・理解） 6. 防災・減災の概念を理解し、状況に応じた災害に対する備えについて説明できる。（思考・判断・表現）	1. 災害の概念・災害の種類・災害の歴史について説明できる。（知識・理解） 2. 災害サイクルと被災者ニーズを説明できる。（知識・理解） 3. 災害に関する法律や政策・施策について説明できる。（知識・理解） 4. 災害時に必要なネットワークについて説明できる。（知識・理解） 5. 災害医療および災害看護について、その役割と活動の実際が説明できる。（知識・理解） 6. 防災・減災の概念を理解し、災害に対する備えについて説明できる。（思考・判断・表現）
先端医療と看護	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3・4	最新の高度化している先端医療について学び、現代における先進的医療の現状に関する知識を修得し、高度の医療における看護の役割を理解する。具体的には、移植再生医療、遺伝子診断と治療などについての知識を得る。また、高度先端医療を必要とする患者に対応する病院である特定機能病院などを中心として、これらの技術を導入して行われる先進医療と看護の役割について学修する。特に、移植医療においてどのような倫理的課題があるのかを明らかにし、事例検討ツールの活用法を学ぶことにより、倫理的課題に対する看護実践力を養う。	1. 移植再生医療、遺伝子診断と治療などの先端医療について説明できる。 2. 先端医療を実践する医療現場で、どのような倫理的課題があるか説明できる。 3. 倫理的課題に対する事例検討ツールの活用方法など、倫理的課題に対する看護実践について説明できる。	1. 移植再生医療、遺伝子診断と治療などの先端医療について概要を説明できる。 2. 先端医療を実践する医療現場で、どのような倫理的課題があるか例をあげて説明できる。 3. 倫理的課題に対する事例検討ツールの活用方法など、倫理的課題に対する基本的な看護実践について説明できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
看護英語I	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	2	看護・医療に関連する様々な場面において使用される英語表現について、基本的な知識とコミュニケーション能力を修得する。	1. 看護・医療に関する英語表現を使い、コミュニケーションができるようになる。 2. 英語で話す力・書く力・聴く力を修得し、医療現場に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。	1. 看護・医療に関する英語表現を使い、初歩的なコミュニケーションができるようになる。 2. 英語で話す力・書く力・聴く力を学修し、医療現場に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。
看護英語II	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	2	看護・医療に関する英文献の内容を正確に理解し、必要な情報を収集するために必要な英文を読む力を修得する。	1. 看護・医療に関する文章に特徴的な英語表現を説明することができる。 2. 看護・医療に関連する英文献の内容を説明することができる。	1. 看護・医療に関する文章に特徴的な英語表現の要点を説明することができる。 2. 看護・医療に関連する英文献の要点を説明することができる。
国際看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	2	海外における様々な文化的背景を持つ人々への看護の取り組みや課題、および、国内での身近にある異文化/多文化と、看護における取り組みの必要性や現状、課題について知見を深める。グローバル化の中、異文化理解の上に立った看護師の役割と国際的活動の重要性と課題について学び、日本の看護の現状についても国際的な視点で学習する。	1. 海外における看護の取り組みに関連する課題を列挙できる。 2. 国内において文化的背景の異なる対象者に対する看護に関する課題を説明できる。 3. 看護の国際的活動について理解できる。	1. 海外における看護の取り組みに関連する重要な課題を挙げることができる。 2. 国内において文化的背景の異なる対象者に対する看護に関する主要な課題を説明できる。 3. 看護の国際的活動について理解を深めることができる。
学校保健・産業保健	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	学校保健・産業保健の実践現場における、保健活動の展開方法と今日的課題への対策の実際、および養護教諭並びに産業看護職の活動方法を体験的に学修し、学校保健・産業保健の理念、基盤となる法制度、活動の枠組みと展開方法、関係職種との連携、ならびに看護職の役割への理解を深化する。加えて、これらの学修を通じて、自身の看護職としてのキャリア形成について考えることを目的とする。	1. 学校保健・産業保健のシステムについて実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 学校保健・産業保健における看護職の活動方法について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。 3. 学校保健・産業保健における、看護職の役割について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。 4. 本科目の学習内容を自身の看護実践やキャリアデザインに生かしていく方法について、自分の言葉で説明できる。	1. 学校保健・産業保健のシステムについて実践的に理解し、概ね説明できる。 2. 学校保健・産業保健における看護職の活動方法について実践的に理解し、概ね説明できる。 3. 学校保健・産業保健における、看護職の役割について実践的に理解し、概ね説明できる。 4. 本科目の学習内容を自身の看護実践やキャリアデザインに生かしていく方法について、概ね説明できる。
エンドオブライフケア論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	エンドオブライフケアが重視されるようになった背景、並びに概念を整理したうえで、生と死に対する考察を深めるとともに、死のときまで、その人らしい生を支援する看護実践の方法を修得する。	1. エンドオブライフケアを必要とする社会的背景、特徴、アドバンスケアプランニングの必要性について説明できる。 2. 本人の意向や生命の質を重視した当事者・家族に対する援助の方法を説明できる。	1. エンドオブライフケアを必要とする社会的背景、特徴、アドバンスケアプランニングの必要性の概略を説明できる。 2. 本人の意向や生命の質を重視した当事者・家族に対する援助の方法の要点を説明できる。
医療安全論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	2	医療安全を学ぶことの重要性と基本的用語を学修した上で、事故発生メカニズムや要因について学び、医療事故の現状とそれに対する国や各施設の医療安全対策の実際や、医療安全のために看護職が担うべき役割や課題について理解を深める。	1. 医療安全を学ぶことの重要性について理解し、医療安全に関する基本的用語を説明できるようになる。 2. 医療事故のメカニズムを個人・組織・システムの観点から理解し、その対応策について説明できるようになる。 3. 医療事故につながりやすい看護援助を上げその防止策について説明できるようになる。	1. 医療安全を学ぶことの重要性について理解できるようになる。 2. 医療事故のメカニズムを個人の観点から理解し、その対応策について説明できるようになる。 3. 医療事故につながりやすい看護援助を上げ、その防止策の基本について説明できるようになる。
がん看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	がん発症の動向と最新の治療法を理解し、治療を受ける患者や家族への看護援助や多職種連携、継続看護によるがんサバイバーシップを支援する方法について学修する。	1. がんの治療を受ける患者と家族の特徴について説明できる。 2. がん患者と家族のがんサバイバーシップを支援するための方法について説明できる。 3. がん患者と家族を支援するための多職種連携、継続看護について説明できる。	1. がんの治療を受ける患者と家族の特徴について部分的に説明できる。 2. がん患者と家族のがんサバイバーシップを支援するための方法について部分的に説明できる。 3. がん患者と家族を支援するための多職種連携や継続看護の必要性について説明できる。
感染看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	3	現代社会における感染症の動向と感染メカニズムを理解し、病院内や在宅などの現場における感染経路別の予防対策や病院内のサーベイランスに基づく感染管理の方法を学修する。	1. 病院内、在宅における感染予防対策について、説明できる。 2. サーベイランスにもとづく感染管理について概要を説明できる。 3. 感染性疾患患者・易感染患者およびその家族の看護について説明できる。	1. 病院内、在宅における感染予防対策について、基本的な部分について説明できる。 2. サーベイランスにもとづく感染管理について概要を説明できる。 3. 感染性疾患患者・易感染患者およびその家族の看護について基本的な部分について説明できる。
リハビリテーション看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	2	リハビリテーション看護の定義・理念、および発達段階や健康レベル、障害の特性をふまえたリハビリテーション看護について学ぶ。さらに、チームアプローチの意義、チームにおける看護の役割や機能について学修する。	1. リハビリテーション看護の定義・理念を説明できる。 2. 発達段階や健康レベル、障害の特性をふまえたリハビリテーション看護の特徴が説明できる。 3. リハビリテーションチームの特徴、チームにおける看護の役割と機能について説明できる。	1. リハビリテーション看護の定義・理念を説明できる。 2. 発達段階や健康レベル、障害の特性をふまえたリハビリテーション看護の特徴が説明できる。 3. リハビリテーションチームの特徴、チームにおける看護の役割と機能について基本的な内容が説明できる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
看護学総合演習	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	4	これまでの学習ならびに体験した実習を踏まえ、今日の医療や医療保険（診療報酬）の仕組みを理解し、医療チームの一員として、看護サービスを実践できる能力を身につける。また、他職種との連携、協働における看護師のリーダーシップのあり方を学び、基礎的なマネジメント能力を養う。そのために、看護技術を統合するための体験学習として、模擬病院および病棟・患者を設定するシミュレーション学習を実施する。	1. 模擬病院・患者についてシミュレーション学習を行えるようになる。 2. 多職種連携・協力における看護師のリーダーシップについて理解できるようになる。 3. 医療体制、医療保険制度の要点を説明できるようになる。 4. 学習成果をまとめ発表できるようになる。	1. 模擬病院・患者についてシミュレーション学習を行えるようになる。 2. 多職種連携・協力における看護師のリーダーシップの要点を理解できるようになる。 3. 医療体制、医療保険制度の要点を説明できるようになる。 4. 学習成果をまとめ発表できるようになる。
看護学総合実習	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	4	専門分野をはじめとする既習の学習を統合し、臨床実務に即したチーム医療、患者管理、医療安全等を踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を培う。具体的には施設実習を通して、1. 病院・病棟の看護におけるマネジメントの実態を知る。2. 看護チームの一員としての役割やメンバーシップについて理解する。3. 複数の受け持ち患者の状態を把握し、優先順位を考え行動する。4. 自己の看護観を深め、職業人としての課題を明確にできるようになることを目指す。	1. 看護におけるマネジメントの実態について理解できるようになる。 2. 看護チームの役割やメンバーシップについて理解できるようになる。 3. 複数の受け持ち患者について状態の把握ができ、行動における優先順位について理解できるようになる。 4. 自己の看護観、職業人としての課題について理解できるようになる。	1. 看護におけるマネジメントの実態について、その要点を理解できるようになる。 2. 看護チームの役割やメンバーシップについて、その要点を理解できるようになる。 3. 複数の受け持ち患者について状態の把握ができ、行動における優先順位について概ね理解できるようになる。 4. 自己の看護観、職業人としての課題について、その要点を理解できるようになる。
総合技術演習（OSCE）II	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	1	4	4年次後期に、個々の学生が看護師として必要な実践能力が養われているのかを客観的に評価するため、複雑な事例を提示し、提示された事例への学生の実践から、個々の学生が卒業までに補うことが必要な能力を明らかにし、学生各自が自己の課題に取り組めるようにする。本演習で学生に求める能力は、専門職業人としての倫理観を基盤とした、正確なアセスメント能力、根拠に基づいた看護実践能力、保健医療福祉チームの一員として看護が提供できる能力、および、実施した看護実践についての的確な評価能力である。	1. 批判的思考や分析的方法を活用した正確なアセスメントを実施することができるようになる。 2. 適切な情報や理論的知識・研究成果を活用した、根拠に基づいた看護実践を実施することができるようになる。 3. 他職種の役割の理解に基づいた、保健医療福祉チームの一員として看護が提供できる能力を養成する。 4. 実践した看護の評価力（リフレクション力、課題設定力）を養成する。	1. 批判的思考や分析的方法を活用したアセスメントを実施することができるようになる。 2. 適切な情報や理論的知識・研究成果を活用した、根拠に基づいた看護実践を実施することができるようになる。 3. 他職種の役割の理解に基づいた、保健医療福祉チームの一員として看護が提供できる能力を養成する。 4. 実践した看護の評価力（リフレクション力、課題設定力）を養成する。
看護研究法I	看護学部 専門教育科目 看護研究	1	3	看護現象の問題や課題を探索し、看護を発展させていくための看護研究の原理と方法の基本を学ぶ。具体的には、看護における研究の位置づけと意義、研究のプロセス、研究方法、研究の種類、研究計画書の立案を習得する。研究をすすめる上で求められる倫理についても理解し、研究者の行うべきことがらを学ぶ。研究の科学性、論理性、オリジナリティを保持するために、文献検索の意義、方法等についても学習する。さらに研究論文の書き方や論文の発表の意義・方法について学び、研究の社会的意義について理解する。	1. 看護研究の種類、目的について説明できる。 2. 看護研究の各種の方法について説明できる。 3. 文献の検索方法を理解し、関心のある1文献をクリティークすることができる。 4. 研究における倫理的配慮について説明できる。	1. 看護研究の種類、目的について概ね説明できる。 2. 看護研究の各種の方法について概ね説明できる。 3. 文献の検索方法を概ね理解し、関心のある1文献をクリティークしてみることができる。 4. 研究における倫理的配慮について概ね説明できる。
看護研究法II	看護学部 専門教育科目 看護研究	2	4	看護研究Iで学んだ研究の原理と方法をもとに、看護研究の実践を体験し、研究的思考と態度を学ぶことを目的とする。具体的には、看護に関連するテーマを自ら設定し、研究的な手法を用いてデータを収集、分析を行い、結果を考察して、結論を導き出す一連の学習に取り組む。研究結果は論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養うとともに、批判的な思考力を修得する。さらには発表を通して得られた研究への意見や評価から、新たな研究課題を整理し、将来に向けての研究発展の基盤とする。	1. 研究計画を立案できるようになる。 2. 目的に応じたデータ収集、文献検索が実施できるようになる。 3. 研究における倫理審査に適合するための要件について、理解することができるようになる。 4. 研究結果のまとめと発表が実施できるようになる。	研究計画の立案から、研究成果の発表までの一連の研究プロセスを、助言や指導のもとに遂行できる。